

あくまでも自分史として

# 「岳陽」と共に

第 34 号

発行日  
2024.8. 30  
編集・発行  
井上講四／堂本彰夫  
※連絡先  
〒901-2225  
沖縄県宜野湾市  
大謝名 3-13-24  
教育協働研究所  
～岳陽舎～  
(井上講四宅)  
Tel:098-963-9282  
E-mail:  
gakuyou17@outlook.jp

○終戦記念日に想う！「新しい戦前」とも言われるが…

昨日（15日）は、79回目の終戦記念日であった！終戦7年後に生まれた私は、まったくその戦争とは無縁の世代であるが、この時期になると、関連のイベントやテレビ番組等で、その悲惨さが繰り返し呼び覚まされるので、否が応でもそのことに対する感慨や複雑な想いが募る！とは言え、日常の自分の言動（生活）は、まったくそれとはかけ離れたものである。ある意味それは、半ば取ってつけたような感ではある！戦争反対！平和の有難さ！そんなことさえ、安っぽいヒューマニズムの受け売りのように思えるのである！

だから、これまでは、ほとんど、それに関わる想いは書かなかった！否、書いてはいけない（書か資格がない？）と思ってきたのである！だが、そんな中、今回偶々観たNHKの番組に、何故か心を奪われた！『新・ドキュメント太平洋戦争1944 絶望の空の下で』というものであったが、『太平洋戦争の3年8か月を、当時の日記や手記から追体験するシリーズ。第4回は市民の犠牲が急増した1944年。1万の住民が犠牲となったサイパン島の戦いを、14歳の少女の手記からたどる。この年本土空襲が本格化、戦火が市民に及ぶ。追い詰められた日本は、人間を兵器にする「特攻」に踏み出す。その犠牲となった若者たちは、みずみずしい感性で、思いを書き残していた。市民の生活はいかに戦争に侵食されていったのか。そんな解説もあった！』とにか、当事者達（人間魚雷「回天」の乗組員を含めた）の「生のあり様」を直に知った！悲惨としか言いようがないが、「新しい戦前」というような言われ方をしてる現今である！果たしてどうなっていくのか？根っからの悪人はいないはずなのだが、何故か？そうやっていく部分もある…！

○やはり、高校野球は（否、も！）素晴らしい！

過日オリンピックも終わり、スポーツ関係のテレビ番組は、ほとんど見なくなつた私であるが、今朝（21日）、遅い朝食（いつも通りだが！）を取りながら、少しは気になつていたら？高校野球（準決勝第一試合の最後の辺り）を見てしまつた！どちらも素晴らしいチーム（関東第一高校と神村学園）で、一点を争う好ゲームであったが、結果は、2対1で関東第一高校の勝利となつた！しかも劇的な幕切れであつた（ヒットで帰ってきた選手が、本塁上で、僅かな差でタッチアウトゲームセット）！

先にも、元高校球児である私は、最早野球のことは、ほとんど興味はないと豪語？していたが（薄情者？）、やはり心の奥底には、そうではないものが残っているのであるろう？それは、おそらく自らの当時の姿（地方大会の2回戦で惨めな敗戦！）が重なっているからであらうが、勝利するチームの選手達のひたむきさ（技能も！）に、どこかで圧倒されていた（る？）自分を感じるからであらう（だから、思い出したくないのである？）…！

ちなみに、神村学園の選手達は、みな坊主頭（二厘カット？）で、最近の光景からすると、逆に異様な感じもしたが、彼らの心意気を表すものとして（昔は、それが当たり前であつた！）、前向きに評価しておきたい（ただし、これについては、おそらく異論も多いであらうが？）！  
追伸 本日（23日）、その決勝戦（京都国際高校対関東第一高校）を見た！とてもいい試合であつた（これもまた、球史に残る名勝負となる？）！そして、その球児達は、何故か、まばゆいばかりの若者達であつた！

○世は代表選で喧しい！だが、「新しい戦前」はどうなる？

国内（否、世界中？）の耳目を集めていた？オリンピックも終わり、今や、米大統領選の状況報告を筆頭に、自民党総裁選、立憲民主党（公明党も！）代表選の報道が喧しい！現在、私が住んでいる宜野湾市の市長選挙も行われる（現職だった市長が旅先で逝去！）とにか、トップの仕事は大変である！なのに、その地位に就きたい人がいる？周囲に担がれて立候補する人もいるようであるが、甘い覚悟で出来るものではない（出世欲、権謀術数が好きな人はともかく？）！余談であるが、某県知事（S氏）のスキャンダル（醜聞？）、本当だとしたら、これほど酷いものはない？トップに立つ人間の品性の問題ではあるが、それを許す？（選挙で選ぶ）側の問題でもある…！

ちなみに、「〇〇維新の会」とか、「〇〇新選組」とか、かつては「新党魁<sup>まがけ</sup>」とか、まさに時代を乗り越えよう（突破しよう）というようなスローガン（政治信条？）で、それなりのインパクトを与えようとしている（した）人達がいる（た）が、やはりその壁は厚く？、国全体を、鋭意動かしていくような力とはなっていない！あるいは、選挙自体の人氣者というような形で、名乗りを上げる人もいる（いた）が、結局は、彼らも、選挙ドラマ（否、政治ショー？）の盛り上げ役にしかなくていない（本人が、それでよいと思っているかどうかは分からないが？）…！

先にも書いたが、今我が国（否、全世界？）は、まさに「新しい戦前」と言えるのかもしれない！しかし、それを、言うだけだったら、何も始まらない！誰が、どんなことをしようとも、いずれば、かの悲惨な戦争へと流れ込んでいくともいえるのか（もちろん、その可能性があるととは言えるが？）？要は、極端に言えば、この国の形／将来を、どのようにしていくのか（してあげようのか）のグランドヴィジョンが必要なのである！裏金問題とか、それを追及するとか、そういうステージの問題ではないのである（マスキミの餌食となるだけ？）…！

「世の中を良くしたい」ということは、実はそういうことなのだが、そのヴィジョンが見えない（言うのは簡単だが？）…！見ようとしても、いつの間にか、誰かに潰される…！（井上）

○「独り善がり」か？それとも「内なる納得」か？

本日(22日)、最近、午後の恒例(高齢?)現象となつていたうたた寝をしながら、半分?ユーチューブを見て(聞いて?)いたのであるが、偶然面白い番組に遭遇した!それは、表面の記事とも関わるが、ある偉人の話である(期間限定特別公開!BS11「偉人・素顔の履歴書」渋沢栄一編)『日本近代資本主義の父・渋沢栄一編』(配信期間:2024年7月7日~8月31日)一そして、そこには、次のような解説文があった!「今回は、現代にも続く経済と産業の礎を築いた渋沢栄一。農民から武士、役人から実業家へと身を展示(転じ?)、いかにして日本近代資本主義の父となつたのか?」

番組では、彼の人となりや業績を、一通り紹介していたが、私は、かのNHKの大河ドラマ(晴天を衝け)2021年)を見ていたので、ほとんどのことは分かつていた(覚えていた!)!そういう意味では、あまり新鮮味は感じられなかった?ただ、他者の評価や、そのことの意味を、改めて知り、別な感動?を得ることが出来た!それにしても、途轍もない功績、否、素敵な人生を送つたものである!幕末、維新の人物で、こうした異彩を放つた人物は、ほとんど知られていなかったということでもあるが、一人の人物の人間臭さを、こんな形で感じ入ることが出来るなんて:~

ちなみに、渋沢を、「独り善がりの人」と、解説者のK氏(歴史家・作家)は断じていたが、ひよつとしたら、この表現(評価)は、かなりの誤解を生むかもしれない!!私としては、「自らの言動の、内なる納得者」というように捉えれば、これもまた、言い得て妙だと言えなくもないなと思つたりもした!とんだ昼寝?の贈り物であった!追伸 私、まだ彼の新札にお目にかかつていない!カネの流通にまったく縁のない存在になつていない!!だが、それは、余りにも違い過ぎる(こちらは哀笑?)!

○これは、単なる国際化ではない?「国」の変化である!!

今回の、甲子園夏の大会の優勝校、京都国際高校の校歌が、何度となく流れた!やはり、奇異に感じたことは、その歌詞がハンゲルであったことである(ただし、日本語訳も併せてあった!)!選手達は、見た目も、名前も、まさに日本人であったが、母国?朝鮮(韓国)の人間であること?インデティイをどう思つていのであるのか?薄っぺらな、民族、歴史認識問題論議を、ここで行うつもりはないが(そもそもしたくない!否、出来ない!)、目の前の光景はそれらを遥かに超えた「新たな現実」(未来?)を感じさせるものでもあった(詳しい実情は分からないが!)!!

しかも、先のオリンピックの出場選手の顔ぶれ(文字通りの意味)を見ると、最早、人種とか、肌の色の違いなどは、遥かに国境?を超えている!「国際化」とか、「グローバルスタンダード」とか、「多様性」とか、よく言われるが、それは、人類が新たな段階(融合国家?)への道を、確実に歩み始めている証拠でもある!!改めて、「国(国家)とは何か?」を考えなければならぬ!!

・短歌に託して書けることの有難さ!!  
・手記・手紙は残酷? 書き手はその時を  
精一杯生きていただけに!

・まばゆいばかりの若者達!

少し休んでくれ 今はそれで十分だ!

・そんなにリーダーになりたいのか?

苦悩するぞ! それでもいいのか?

・「独り善がり」?「内なる納得」?

どちらでもよい? 何を為したかである!

・「国際化」を通り越した 国自体の変化!!

世界は既に そうなつていふ!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ④

○改めて、古代九州の全体像を探るーその5ー

となると、当地(高良山周辺)においては、まずは、景行天皇の皇子国乳別皇子を始祖とする「水沼君」がその地を治め(そこに先住していた?肥前水上/背振山南麓の桜桃沈輪 熊襲?を討滅した?)、その後、そこに神功皇后や武内宿禰の勢力が流入し、高良山を拠点にした、いわゆる「九州王朝」(の祖型?)が出現した!!そして、それが、その後、いわゆる「倭の五王」時代を作っていくということである!!要は、その地は、少なくとも三つの勢力の攻防(融合?)の地でもあったということである!

しかるに、ここが重要であるが、それらの勢力の攻防(融合?)の結果、近畿に移動する勢力(崇神/饒速日勢力)とそこに居続けた勢力(開化天皇勢力)最終的には大宰府方面に移動した?が、その後の「二つの倭国」(時期は三つか?)を形成し、九州(筑紫)倭国を母体にしたがらも、広範な領域国家を実現させていったということである(なお、その祖型を変えたのが、かの6世紀初頭の「磐井の乱」であった?)!!しかも、冷静に捉えれば、それらは、まさに「空白の4世紀」(頃の話であり、ある意味では、そこでの推移(全体像)が、後世の我々にとつての「空白(の世紀)」となつていのである(もちろん表面的には、中国史書に載っていないということであるが!)

ということ、ここでは、改めて、その中心人物として描かれている、かの「武内宿禰」の謎を追究していく必要があるわけであるが、その一番の謎(異常なまでの長寿はともかく)は、彼が、蘇我氏、葛城氏、紀氏等、いわゆる「葛城諸族の祖」とされていることであり、そしてまた、ある時期の政権中枢であった高良大社周辺において、北部九州勢力と中南部九州勢力(龍襲)の双方(ただし、それぞれの一部は、後の近畿勢力とも言える)に関係していることである!したがって、そこに登場している、藤大臣(武内宿禰?)、神功皇后、その夫とされる仲哀天皇、その子とされている応神天皇等の事績究明(史実解明)が、つとに待たれるのである!(つづく)

〈編集後記〉今年、実に盛り沢山の8月であったが、その締めが台風(10号)とは:進路が尋常ではない(雨量も)!今はただ、過ぎ去ることを見詰める他ない?願う!被害小! (井上/堂本)